

SUMA いる タイムズ 10号



令和4年度は様々な研修をオンライン、参集で開催いたしました。須磨区の医療介護専門職の方々には研修の講師となり、医療介護専門職全体のスキルアップ、多職種連携の促進のためにご協力いただきました。次年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

研修報告

須磨区の救急搬送の現状と今後について ～救急との連携を考えよう～

第1部 救急搬送の現状

神戸市須磨消防署消防防災課 須磨救急隊 消防士長 関灘成美氏

第2部 蘇生拒否（DNAR）についての救急隊運用変更

神戸市須磨消防署消防防災課 須磨救急隊 隊長 消防司令補 神野晃利氏

日時：令和5年1月11日（水） 15：00～16：30 場所：オンライン（ZOOM）参加者：36名

関灘講師より、救急隊や救急搬送の現状、そしてコロナ患者の対応やコロナ禍における救急隊の奮闘や苦悩等を教えていただきました。神野講師よりは、4月から運用予定のDNARプロトコルについて、策定の背景から用語の定義、実際の流れ等、詳しく説明していただきました。また、DNARプロトコルの運用に関しては、関係機関の相互理解だけでなく、市民へのACP（アドバンスケアプランニング）の普及も重要になることを教えていただきました。

意見交換会では、オンライン上となりましたが、救急の現場の疑問など、須磨区の在宅現場の事例を用いながら、様々な意見交換ができました。

研修後アンケートでは、「救急隊の現状や活動の状況など、今まで知らなかったことを沢山知る機会となった」「救急隊の状況がわかり、こちらの対応を考えることができた。スムーズに連携していけるように、今後につなげたい」との回答がありました。

令和4年度介護に役立つ医療講座

糖尿病

座長：戸根 幸太郎氏（戸根内科・神経内科医院）

第1部 「高齢者の糖尿病について」

講師：阿部内科医院 院長 糖尿病専門医 阿部泰尚 氏

第2部 「糖尿病の方の療養生活について」

講師：セントケア訪問看護ステーション須磨 所長 看護師 原田三奈子 氏

日時：令和5年1月14日（土）15：00～17：00 場所：オンライン（ZOOM）参加者28名

令和5年3月8日（水）～3月15日（水） 動画配信（YOUTUBE） 参加者27名

阿部医師からは、高齢者糖尿病の病態、低血糖・高血糖、シックデイ、糖尿病性足病変等について。また、サルコペニアやフレイル、認知症にも配慮した治療・介護の必要性について教えていただきました。

原田看護師からは、介護にかかわる人に知ってほしいこととして、情報収集の視点、低血糖の見つけ方、シックデイの対応等について教えていただきました。

研修後アンケートでは、「医師、看護師のそれぞれの目線からの観察項目や注意点、治療など勉強になった」「関わり方や指導の仕方の工夫など勉強になりました」等、現場での活用にもつなげた意見が多くありました。

また、講師にご協力いただき、サポートセンターとしては初めての動画配信（申込者への限定公開）を実施しました。研修後アンケートからは「人員不足で時間がとれず、研修に参加したくてもできず、隙間時間に視聴できるのはとても助かります」との回答がありました。

第5回ケアカフェ IN SUMA

「薬剤管理に関すること、薬剤師さんにいろいろ教えてもらおう！」



日時：令和5年3月9日（木）15:00～16:30 場所：須磨区医師会館 参加者数：18名
レクチャー「薬局での服薬サポート例の紹介」 講師：ひつじ薬局 丹下昌弥氏

約3年ぶりに対面でのケアカフェを開催しました。始めに、講師からは、最近の薬局の業界事情、そして事例や写真を用いて、在宅での様々な薬剤管理の方法を教えてくださいました。

その後、グループで①薬剤師さんと連携した事例でよかった事や困った事等の体験談②薬の事、連携等の日頃の疑問等、聞きたかったこと③今日の話し合いで最も印象に残った事。明日からの薬剤師（多職種）との連携において実行しようと考えている事について話し合いしました。

日頃の困りごとや疑問を対面で相談することで、各職種の役割や専門性が具体的に理解でき、今後どのように連携を取ればよいのかイメージすることができました。

研修後アンケートでは、薬剤師より「他職種の人が在宅介入して何に困っているのかを把握することができた」多職種より「薬の基本的な事、薬剤師さんの本音などが聞けて良かった」「とりあえず何か疑問があれば相談してくださいと薬剤師さんに言っていただいて心強く思いました」との回答がありました。

多職種での関係作りにおいて対面で開催が有効であることを改めて感じる事ができました。今後も、皆様のご参加をお待ちしております。



あらためまして！医療介護サポートセンターを紹介します！

須磨区医療介護サポートセンターは開設して6年目になりました。「医療介護サポートセンター」は地域の医療・介護関係者の連携をサポートすることで、安心して暮らせる地域づくりを目指しています。

第3回目は、市民を対象に、在宅医療・介護への理解を深めることを目的とした市民啓発についてお伝えいたします。コロナ前はあんしんすこやかセンター圏域ごとに実施していましたが、コロナの影響で開催が難しくなり、令和4年度は出前講座として、お申込みいただいた1か所で感染対策実施のもと、市民啓発を実施しました。

絆・生きセミナー～医療と介護を学ぼう～
家で治療が受けられる！？～在宅医療について～
～医師・看護師が訪問で出来ること～

日時 令和4年12月10日（土）14:00～15:30

場所 ルゼフィール名谷東 集会所

参加者20名

講師 林山クリニック 院長 梁 勝則 医師

訪問看護ステーションすまあと 所長 富寄 ゆかり 看護師



講師には、在宅医療について、在宅看取りも含めた内容を、事例を用いてわかりやすく教えてくださいました。研修後アンケートでも、参加者の研修内容の満足度は高く、在宅医療のイメージができた、準備・心構えができたとの意見がありました。30～50歳代の参加者もあり、「親が介護保険を利用している。親の希望した生活ができているのか、これからどうするのか話を聞こうと思えた」とのご意見もありました。

市民啓発の対象者としては、高齢者だけでなく、介護中、介護前の中年層への啓発も必要であることを再認識しました。

ご紹介します！

キラリ☆と輝く街の専門職



人生心機一転

たくさんの挫折から学んできたもの、
トップを目指すには夢を描くだけでは叶わない。

口で言うのは簡単で行動に移せているのだろうか、まずは1日の計画から。

がむしゃらに走り続ける、負けないためにライバルは自分。

自信がつくまで、胸を張って試合に挑める様にとプロゴルファーを目指していました。

結果プロテストも合格せず、それまで多くの方に手を差し伸べて頂き、大変申し訳なく意気消沈していましたが、10年以上経っても応援し続けて下さり、その過程が今でも生きているのかなと思います。

現在は訪問介護事業、障害福祉サービス、介護タクシーを開業して今年で6年目になります。

1年目は日々どういった会社になりたいかを考え基盤作りをしました。弊社で大切にしているのは、言葉遣いと笑顔です。どんなに技術が長けていても人に嫌な思いをさせてはいけません。言葉を発する前に1度考え、この言葉を伝えたら相手がどう思うのだろうという癖を付けることにより、気配りもできる。なかなか自分自身の良くない所を改善するのは難しいですが、変わろうと思う意識は大事だと思います。

それぞれの人生を歩んで来られた利用者様、介護認定を受けサービスが必要となり、これ

訪問介護 ケアーマイスターズ 管理者 梅田 千加さん

からも第3.4の人生が少しでも快適に送れるように責任をもって、共感しながら共にその人らしい生き方を尊重し、サービス提供を行っていく。その上で、連携を無くしては1人の利用者様を大切にすることはできません。多職種の方と協働することで様々な問題に取り組み、より良い在宅生活が送れると思います。

訪問介護では主に日常生活のサポートですが、なかなか一筋縄ではいかないものです。利用者様も十人十色で、ご自宅の環境、お身体の状態、それぞれの想いの傾聴、制度へのご理解、あの手この手で対策しますがプランをどうしても達成できない事も出てきます。利用者様の性格を知りサービスの度、何か伝えたいことはないだろうか、行き届いていない所は無いだろうかなど、近くで向き合える事で現場の声を届けることができます。

介護する側も仕事が嫌にならない様に気持ちの面でもサポートしていき、たくさんの困難がある程、色々なことが学べて、一致団結により成長し続けられると思っております。

人を笑顔にできる、素敵な職業をもっと多くの方に知っていただきたいです。

ご覧いただきありがとうございました。



サポートセンターからのお知らせ

今後の研修予定

第19回在宅医療講座

「認知症BPSD対応とコミュニケーション（仮）」

座長：戸根内科・神経内科クリニック 戸根幸太郎氏

講師：林山クリニック 梁勝則氏

日時：令和5年5月18日（木）17：00～18：00 場所：オンライン（ZOOM）

案内ができ次第、各事業所にFAX等でご案内いたします。

また、医療介護サポートセンターホームページにて案内を掲載いたします。

